

# 若葉っ子だより



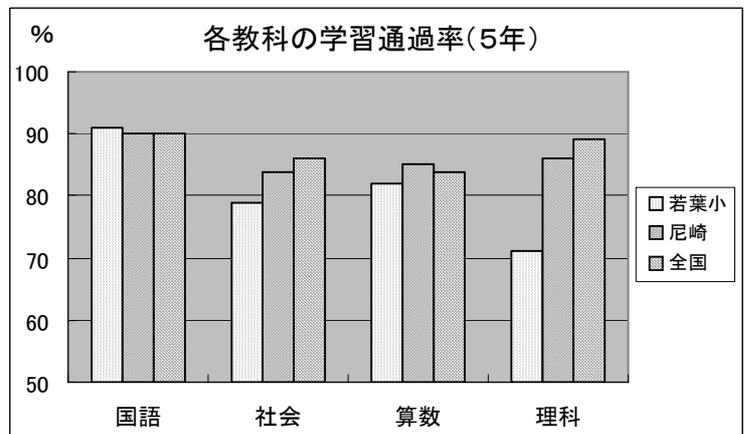
尼崎市立若葉小学校  
平成22年1月13日

## 学力・生活実態調査（平成21年度実施）の結果について

平成21年5月に実施しました「学力・生活実態調査」の結果の概況がまとまりましたので、保護者の皆様にお知らせいたします。この調査は、学習の定着度や学習意識、家庭での学習実態を客観的に把握し、今後の学校の指導体制や指導方法の工夫改善、家庭学習の進め方などに生かすために実施されました。結果は、実施学年の限られた教科や生活実態で、学校全体の概要を表すものではありません。特に本校の場合は、対象数が非常に少ないこともあり、正確な実態を示しているとは言えません。しかし、学校としては、結果を真摯に受け止め、基礎学力の定着や基本的な生活習慣の確立をはかるために、これからも具体的な検討を進めてまいりたいと思います。（市の調査結果は、尼崎市教育委員会のホームページに掲載）

### I 5年生（4年生の内容）

「学習通過率」とは、あらかじめ設定した到達目標としての基準値を超えている児童の割合をいいます。国語の通過率「91」は基準値を超えている児童が全体の91%いることを表しています。国語は全国・市平均とほぼ同じくらいですが、算数・社会、理科が、全国・市を下まわっています。

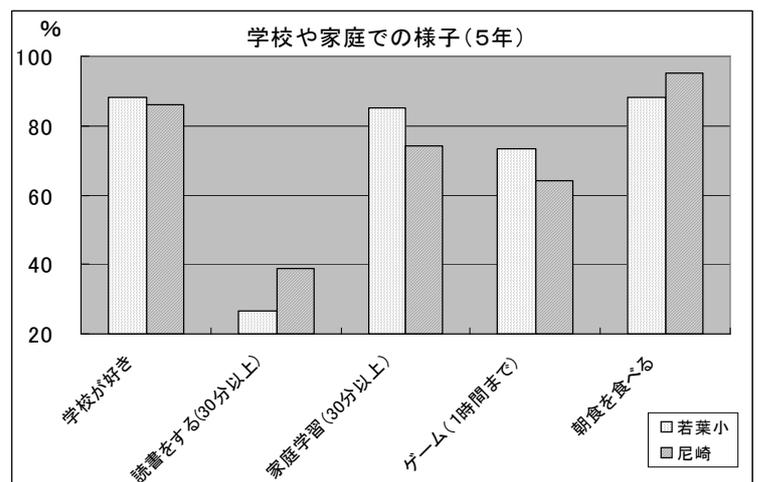


#### 1 結果の概要

- 国語 通過率は91%で全国・市を1%上まわっていますが、得点率（平均点）では75.6点と全国を1.1点、市を1.8点下まわっています。
- 社会 通過率は79%で全国を7%、市を5%下まわっており、得点率も64.1点で全国を7.5点、市を5.4点下まわっています。
- 算数 通過率は82%で全国を2%、市を3%下まわっており、得点率も70.7点で全国も市も2.6点下まわっています。
- 理科 通過率は71%で全国を18%、市を15%下まわっており、得点率も60.3点で全国を12.3点、市を10.2点下まわっています。

#### 2 分析と課題

昨年の5月に4年で実施した国語と算数の学力調査では、ほぼ全国平均であったこと、男女差がさらに大きく開いたことなどが課題と言えます。学校では、これを真摯に受け止め、各教科の時間をきちんと確保し、特に市や国と大きく差のある社会や理科の指導の仕方を工夫し、子ども達が楽しんで学習できるように努めています。一人一人が得意としている領域を認め、成功体験を積み重ね、さらに引き上げると共に、苦手とする領域もがんばろうとする姿勢を持たせていきたいと思ひます。

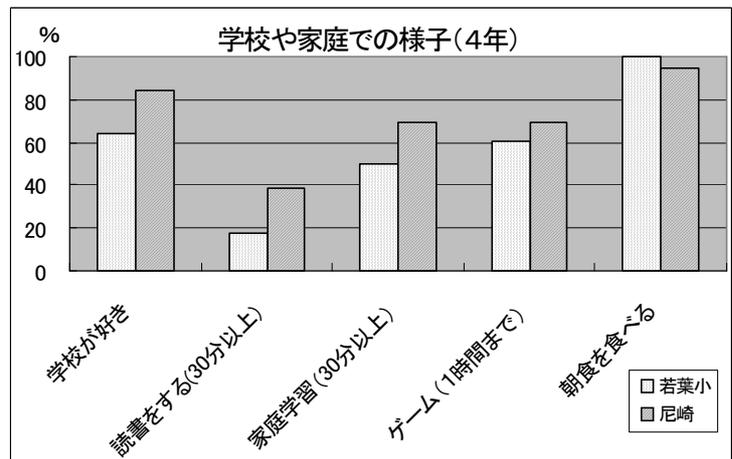
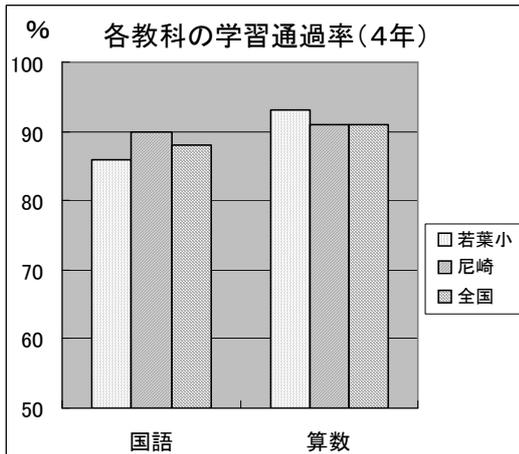


### 3 学校や家庭での様子について

前ページのグラフは、学校生活や家庭生活での肯定的な割合を表したものです。学習時間は、市平均より長いようですが、読書時間が市平均と比較するとかなり少ないようです。市の分析でも、読書量の多い児童は学力も上位であることが数字上の相関関係ではっきり分かっています。

基本的な生活習慣はできているので、朝の読書タイムの充実など、本に親しむことができる環境を整えていきたいと思っております。ご家庭でも、家族みんなで読書をする時間が作れるようでしたら、ご協力をお願いします。

## II 4年生（3年生の内容）



### 1 結果の概要

#### 1 結果の概要

- (1) 国語 通過率は86%で、全国を2%、市を4%下まわり、得点率は69.3点で、全国を3.9%、市を4.8%下まわっています。
- (2) 算数 通過率は93%で全国・市を2%上まわっていますが、得点率は76.3点で全国を3%、市を3.5%下まわっています。

### 2 分析と課題

国語も算数も、全国や市との差はそれほど大きくはありませんが、どちらの教科も「関心・意欲・態度」が、全国・市と比較して、11.5～17点も低いことがマイナスの特徴として出ています。いかに、学習に関心を持たせ、意欲を持続させていくかが、学習の重要なキーポイントとなるようです。後、3ヶ月ですが、次の学年へ向けてがんばっていききたいと思います。

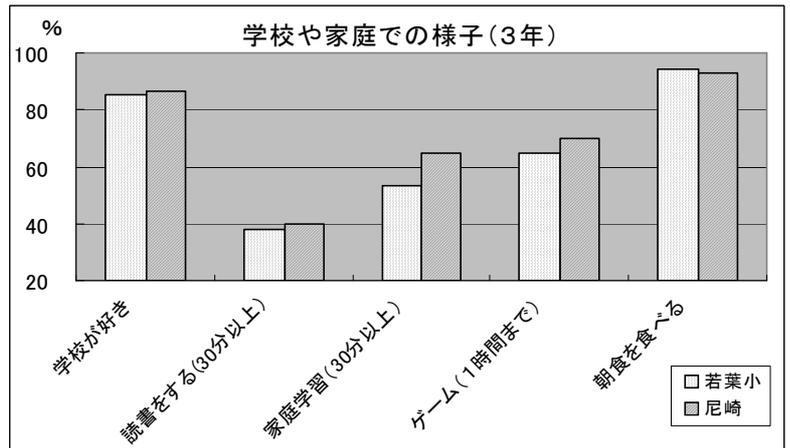
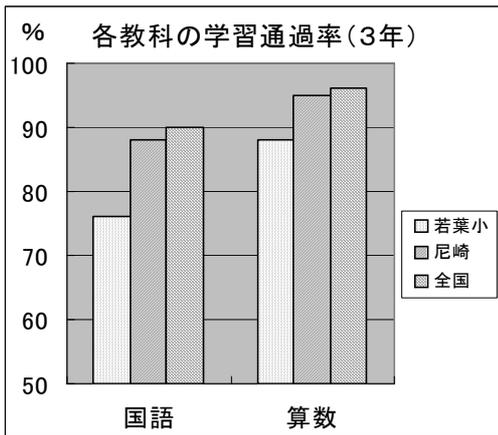
### 3 学校や家庭での様子について

この学年もゲーム漬けの児童は少ないですが、30分以上の家庭学習や読書の習慣がある児童が、市平均や他学年と比較して非常に少ないです。また、市平均より「先生の話をよく聞いている」が11点、「授業中に友達と勉強以外のことでおしゃべりをする」は33.8点、「宿題以外で忘れ物をよくする」は17.8点も高く、授業中の態度が大きな課題です。学校では、授業中おしゃべりしない、先生や友達の発言をしっかり聞くなど、集中して学習に取り組む態度面をしっかり指導していきますので、ご家庭では忘れ物をしない、宿題をきちんとするなど、連絡帳等での確認をお願いします。

## III 3年生（2年生の内容）

### 1 結果の概要

- (1) 国語 通過率は76%で全国を14%、市を12%下まわっています。得点率は66.6点で全国を6.5点、市を7.6点下まわっています。特に「書く」「言語領域」領域において、著しく下まわっています。
- (2) 算数 通過率は88%で全国を8%、市を7%下まわっています。得点率も76点で全国を5.1点、市を4.5点下まわっています。「関心意欲」は全国と同じくらいですが、「知識理解」で大きく下まわっています。



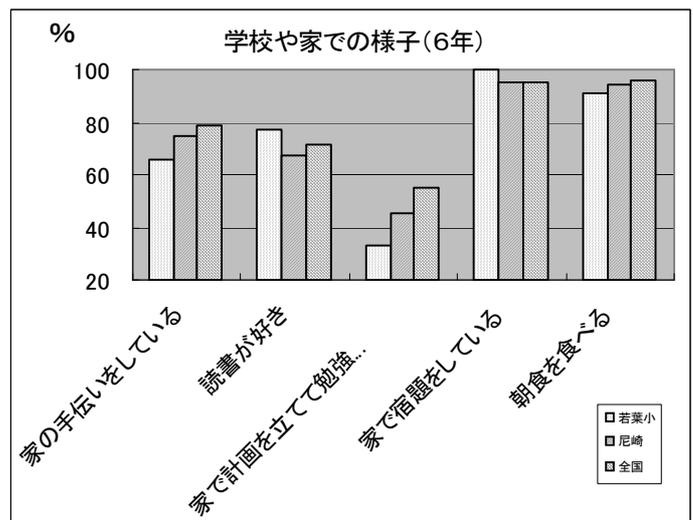
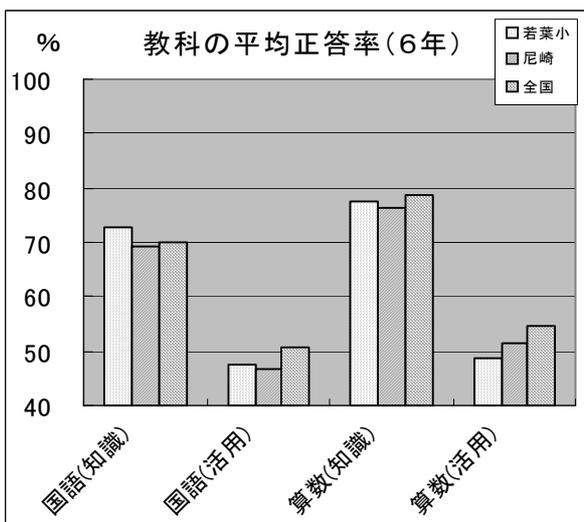
国語も算数も「関心意欲」は全国と同じくらいですが、全ての領域・内容において理解が不十分と考えられます。国語学習は全ての学習の基礎基本であることから、漢字を正しく覚え、正しく使う力や文や語の意味を理解する力の定着を図り、朝の読書タイムの充実や日記指導、作文指導、各教科の学習時間での発表等を通して、国語力を上げていく必要があります。

算数では、「たし算」「ひき算」「かけ算」はよく理解できているのですが、「長さ」で理解不足のところがあります。生活の中で長さや重さなどいろいろな単位を活用していく必要があります。

### 3 学校や家庭での様子について

学校や家庭での様子は、30分以上の家庭学習で市平均より12.1点低い以外、全国平均とほぼ同様です。家庭での学習のようすでは、「宿題はきちんとする」「嫌いな科目でもがんばる」「言われなくても進んで勉強する」「授業で習ったことについて自分で詳しく調べる」が、市平均より5.4～16.7点上まわっており、学習に向かう姿勢は大変すばらしいと言えます。また、「家の人が気持ちを分かってくれ」「自分の気持ちを分かってくれる友達がいる」も市平均を10点前後上まわっており、申し分ない環境の児童が多いようです。このように、生活や学習に対して積極的な児童が多いのに、なぜ、学力が低いのか、学校でもよく分析し、一人一人に合った支援の仕方を考えて対応していきたいと思っています。

## IV 6年生(5年生の内容)



6年生は文部科学省が実施した全国一斉の学力生活実態調査を実施しました。教科学力は国語と算数の2教科で、それぞれに「A：主として知識に関する問題」「B：主として活用に関する問題」の計4種類の調査の結果です。そのため、調査の項目や領域が3～5年とは少し違っています。また、結果は、「通過率」ではなく「正答率(正しく回答した人数の割合)」で表示しています。

### 1 結果の概要

(1) 国語 A(知識)の正答率は72.7%で市も全国もわずかに上まわっていますが、B(活用)は47.4%で市をわずかに上まわって、全国を少し下まわっています。

- (2) 算数 A (知識) は 77.6% で市を少し上まわって、全国を 1% 少し下まわっています。  
B (活用) は 48.7% で、市も全国も少し下まわっています。

## 2 分析と課題

国語も算数も、知識面に関しての定着度は全国平均並みと言えます。昨年度の全国調査と比較しても、今年度は点数的に少し良い結果を得ていますが、両教科共に活用においては低い結果となっています。市全体でも、活用面での定着が課題となっていますが、本校は市以上に厳しい結果となりました。

また、国語では知識・活用の両方での領域分析で、「読むこと」「読む能力」が全国や市を上まわっていますが、これは「読書が好き」と答えた児童が全国や市を上まわっていることと関係があるようです。一方、知識面での「言語事項」は全国や市を上まわっているのに、活用面で大きく下まわっていることは問題で、日常の学校生活や家庭生活で既習の漢字やことばを意識して使わせたり、言葉を大事に話す・書く機会を、教師自身も意図的に仕組んでいくことが必要となってきます。

算数については、各領域で少しずつ低く、大きな課題は見あたりません。

どちらにしても、昨年度の課題であった「無回答」が大きく減りました。あきらめずに最後まで問題を解こうとする努力が実った結果と評価されます。

## 3 学校や家庭での様子について

全国・県平均と比較して、「1日4時間以上テレビやビデオを見る」が49%で国や県の24%のほぼ2倍あること、「携帯電話での通話やメール」が10%以上上まわっていること、「朝食を家族といっしょに食べる」が20%、「夕食」は4~6%下まわっていることなどから保護者の忙しさが伺えるのですが、その割に「家の手伝いをする」が低いのです。朝から晩まで子どものために一生懸命働く親の姿と、その留守にテレビ、ゲームや携帯漬けで遊んでいる子ども達が目に浮かびます。何が子どもに必要なかを今一度考えて見る必要がありそうです。欲しい物をすぐに与えてもらえる喜びより、我慢させて耐えてからもらったときの喜びを経験させる方が人間形成上大事なことだと思います。

また、国や県より、今住んでいる「地域の歴史や自然に関心がある」が13~16%、「地域の行事に参加している」が28~31%も低いことは、非常に残念でなりません。道意町を支える未来の人づくりを真剣に考えていく必要があります。学校では、総合的な学習の時間等に地域学習を取り入れ、地域を知って、地域を好きになって、地域へ働きかけることのできる子どもを育てなければならぬと痛感しました。

## V まとめ

- (1) 読書と学力との相関関係がはっきり出たことから、学力向上も含めて幅広い人間形成ということからも、朝の読書タイムや図書館教育、読書週間の定着等、読書活動をより有効に活用していきます。
- (2) 加配教員の有効活用。現在、正規教職員の新学習システム担当を中心に、非常勤講師を有効に活用し、児童のきめ細かな指導を実施していきます。
  - ① 新学習システム、学力向上の非常勤講師2名を3~6年に配置し、主に算数の少人数指導や複数指導できめ細かな指導。
  - ② 主幹教諭付き非常勤講師を特別支援学級の補助、上記①の少人数指導の補助に配置。
  - ③ 週18時間の特別支援学級生活介助員を特別支援学級に配置。
- (3) 県や市の事業の積極的な活用を図っていきます。県の事業では、理科おもしろ推進事業を受けて5・6年の理科授業の充実と支援員による実験・観察の補助。
- (4) 夏休みを利用して、全校全教職員体制による基礎基本の徹底。算数教室や計算科教室、自主学习教室などを開催していきます。
- (5) 外部講師・ボランティアの活用。図書室の本の貸し出しや返却の作業を保護者のボランティアにお願いしたり、ストーリーテリングなどにも来ていただいたりしています。おかげで大変助かっています。
- (6) 児童が学校でホッと空間、心地よい居場所、友達と語り合える広場を整備する活動を続けます。本校では校務員を中心に地元ボランティアの方にお手伝いいただきながら整備し、四季の花々を植え、児童の心を癒しています。清掃指導にも力を入れ、花で囲まれた美しい学校作りを進めています。今年度のクリーン清掃は、オープンスクール内に設定し、大勢の保護者に参加していただきました。

## おわりに

今後も、若葉小学校は全職員が一丸となって、児童の幸せな成長を願い、指導に取り組んでまいります。そのためには、保護者の皆様のご協力のもとより、地域の皆様のご協力が必要となります。今後とも、よろしくご協力ご支援くださいますようお願いいたします。  
(校長 中村幸子)